グローバル時代を読み解くキーワード

ニュースの裏側まで分かる国際情勢を読み解く良書

世界のあちらこちらで日々起こる出来事。ジャーナリストの手嶋龍一さん、毎日新聞論説委員の福本容子さんに、「国際情勢の連鎖を見抜く目」を持つための本を選んでもらいました

国際政局の素顔を描いた本 今という時代の本質を知る

ヨーロッパを知る

饗宴のテーブルから見る国際外交の駆け引き

『ワインと外交』
西川 恵著
新潮社／735円

各国首脳が集まる饗宴のテーブルに出されたワインから国際政治を読み解く。「羽田首相には仲間内で飲むワイン、海部首相にはグラン・クリュ（特級）に次ぐ格付けのワインが出されたといいます。当時フランスに『羽田内閣は既に死に体』と思われていたと分かる。フランス大統領がすすめるワインに、各国首脳の格付けが表れていたのです」

冷戦時代の情報戦を描いたスパイ小説

『寒い国から帰ってきたスパイ』
ジョン・ル・カレ著　宇野利泰訳
早川書房／756円

東西冷戦時代、ベルリンの壁を境に展開される英対東独諜報部の熾烈な暗闘を描くスパイ小説。「イギリスの情報機関に勤務していた著者だから書けた作品です。冷戦下の情報戦が実にリアル。情報源を秘匿するためフィクションの形を取っていますが、現実を精緻に写したスパイ小説の金字塔です」

アジアを知る

上海100年の歴史から中国をのぞく

『上海』多国籍都市の百年
榎本泰子著
中央公論新社／840円

外国人居留地である「租界」を中心に発展した上海の、100年間の歴史。「1930年代の上海ほど、面白い都市はないといわれています。中国という巨大な国を知るために、その時代の上海から手を付けてみると興味深く入っていけるでしょう」

2050年、世界はアジアが中心に!?

『「アジア半球」が世界を動かす』
キショール・マブバニ著　北沢 格訳
日経BP社／2310円

2050年には中国、インド、日本が世界経済の中心となる。シンガポール外務省に30年以上勤務し、国連大使も務めた著者によるアジア論。「日本を含めたアジアが、どのように変わってきたのかを俯瞰する視点が持てる本です」

アメリカを知る

ビンラディン暗殺までのアメリカ政権の舞台裏に迫る

『ブラック・スワン降臨』
9.11-3.11インテリジェンス十年戦争
手嶋龍一著　新潮社／1575円

ビンラディンが暗殺されるまでのアメリカ政権の舞台裏、福島の原発事故時の首相官邸の様子など、リアルな筆致で描かれたノンフィクション。「ブラック・スワン＝ありえないと思っていた事態が現実になることを言う。インテリジェンスのセンスが問われる瞬間です」

アメリカという超大国の本質が分かるノンフィクションの傑作

『ベスト&ブライテスト』上・中・下巻
D・ハルバースタム著
浅野 輔訳
二玄社／各1785円

ケネディ政権下に集まった「最良にして最も聡明」といわれたエリートたちが、なぜベトナム戦争の泥沼に突入したのか。「超大国の権力がどのようにつくられたのかが分かります」

ジャーナリスト・作家
手嶋龍一さん

profile
NHKのワシントン支局長として9.11同時多発テロに遭遇し、11日間連続の中継放送を担った。『ウルトラ・ダラー』『スギハラ・ダラー』『外交敗戦』（いずれも新潮社）など著書多数

外交や情報戦の舞台をのぞき国際情勢に強くなる

「迷路のように錯綜した国際事件を扱った本の中には、つい徹夜してしまうほど面白いものがあるんですよ」と語るのは外交ジャーナリストの手嶋龍一さん。

手嶋さんが絶賛する『ベスト&ブライテスト』は、政権の中枢に分け入って取材を重ね、ベトナム戦争の泥沼に引き込まれていくケネディ政権の高官たちやその素顔を描いたノンフィクションの傑作。

一方、情報小説の最高峰は、やはり『寒い国から帰ってきたスパイ』だという。自らも英国の秘密情報部員だった著者が、東西の情報戦の実相をリアルに描き、敵を監視する斥候（せっこう）兵の報告のように伝えている。「冷たい戦争を戦った情報戦士たちの墓碑銘といっていい作品です。フィクションにもかかわらず、どんな現場報告よりリアルに冷戦を記録しています」

手嶋さんはインテリジェンスを武器に、国際政治の本質に切り込む視点を持っている。

「『インテリジェンス』とは、膨大な一般情報の海の中から選り抜かれたダイヤモンドの原石。それは単なる極秘情報にとどまらず、国家の命運を懸けた決断のよりどころとなるものを言います。外交や情報戦の舞台で、どのようにインテリジェンスが紡ぎ出されているか、優れた著作から読み取ってみるのも面白いものです」